

「いつでも始められる生涯学習・社会教育」個の学び

- ①必要とされる学習課題の把握と分析 (1-(1)) → **学びのニーズの把握と分析**
- ②市の施策を通じた学習機会の提供 (1-(2))
→ **リーパスカレッジを中心にした学びのきっかけづくり**
- ③困難を抱える人への学習機会の確保 (1-(3)) → **誰もが学べる環境づくり**

「工夫豊かな生涯学習・社会教育」仕掛ける

- ①生涯学習施設の充実と有効活用 (3-(1)) → **生涯学習施設の有効活用と発展**
- ②総合的な学習情報の収集及び発信 (4-(3))
- ③生涯学習センターの機能拡充 (3-(2))

「つながり深まる生涯学習・社会教育」つながる

- ①「市民が社会を創る」市民活動の支援 (2-(3))
- ②分館活動による「ふるさとづくり」による支援 (2-(2))
- ③さまざまな主体による連携・共働の推進 (4-(2))
- ④ **社会教育委員を通じた学びの交流 (新)**

「個性をみがく生涯学習・社会教育」自己実現

- ①生涯学習・**社会教育**の振興を支える人材の育成及び充実 (4-(1))
- ② **市内事業所のスキルアップ・リカレント (学び直し) 推進 (新)**

「やる気が高まる生涯学習・社会教育」モチベーション

- ①生涯学習社会の実現に向けた計画の普及・啓発 (4-(4))
- ② **自分の学びを発信する場の提供や支援 (新)**

「いつでも始められる生涯学習・社会教育」個の学びの応援

生活の多様化が進む社会においては、学びにも新しい手法が求められています。時間を、場所を、経験を問わない手軽なところから開始し、自身のライフスタイルに合った学びを続けていくための場を提供し、生涯学習・社会教育の充実を図ります。

①必要とされる学習課題**学びのニーズの把握と分析** (1-(1))

令和4年10月に市民1800人、200事業所に対し生涯学習に関するアンケートを行いました。今回の計画については、このアンケートを基に作成していますが、今後、5年周期で同様のアンケートを行い、市民の生活に根ざした学びのニーズの把握、及び分析によるより身近な学びの提供を目指します。

②市の施策を通じた学習機会の提供

リーパスカレッジを中心とした学びのきっかけづくり (1-(2))

新しく学びたいが、一方で何をすればいいかわからない人も多いのが現状です。そのため、市が主催する市民講座「リーパスカレッジ」でさまざまな学びの「はじめの一步」「新たな一步」をサポートしていきます。

また、古賀市だけでなく、国や福岡県が発信する学びの情報についても、市民に届けることで市民の学びを支援します。

③困難を抱える人への学習機会の確保**誰もが学べる環境づくり** (1-(3))

忙しく時間を確保するのが難しい人、学びの場にやってくるのが困難な人、障がいを持つ人や海外で生まれ育った人、人の数だけ生活があります。そうした学びに対し困難を持つ人へも学習の機会が設けられるよう、場所や時間を選ばない方法での学びの提案や支援者の紹介などを行います。

「工夫豊かな生涯学習・社会教育」仕掛ける

学び続けていくためには、多大な労力を要します。自身の生活環境の変化や、仲間や友人、家族の状況、活動の場の老朽化など、様々な活動への困難を解消し、市民のよりよい学びの活動を支援します。

①生涯学習施設の充実と有効活用 **生涯学習施設の有効活用と発展** (3-(1))

市内には、リーパスプラザこが（交流館・中央公民館・歴史資料館・図書館）や児童センターなどの社会教育施設や、クロスパル古賀をはじめとした社会体育施設など、多くの生涯学習施設があります。こうした施設がより身近になるよう、令和4年10月からは予約システムをリニューアルし、リーパスプラザこが及び社会体育施設についてはインターネットによる予約及びクレジットカード決済に対応しました。今後も多くの市民に利用いただくため、利便性の向上を図っていきます。

また、古賀北中学校では、令和5年度より、空き教室を地域開放室として市民に開放しました。学校のグラウンドや体育館同様、新しい市民の学びの場として定着するよう周知していきます。

②生涯学習センターの機能拡充 (3-(2))

リーパスプラザこがは平成27年にオープンし、新たな学びの場として交流館の貸館がスタートしました。以降、多くの市民にご利用いただいておりますが、一方でまだ知らない、行った事がないという人も相当数います。そこで、リーパスプラザこがでどんなことが行われているのか、どんなことができるのか、市民に分かりやすく発信していきます。

また、中央公民館大ホールを市民ホール化することで、より本格的な文化・芸術活動を市民の身近に届けるなど、更に利便性のよい施設となるよう取り組みます。

③総合的な学習情報の収集及び発信 (4-(3))

現在、古賀市の様々な部署、近隣自治体、福岡県、国、教育機関や民間団体などから、多様な学びが発信されています。そのため、各部署と連携し、積極的に情報収集を行い、正しい情報を市民に発信していきます。また、広報紙だけでなくインターネットを通しホームページや各種 SNS、LINE を利用し、より多くの市民に情報が届くよう努めます。

「 つながり深まる生涯学習・社会教育 」 つながる

生涯学習・社会教育活動を続けていく上で他者との交わりは必要不可欠です。個人で活動している人は、同じ学びを行う人と接することで新たな学びを得ることができます。団体として活動している人は、別の団体の活動を知ること、団体の運営や新たな方向性を学ぶことができます。こうした交流を積極的に作っていくことで、相互作用をもたらしていきます。

①分館活動による「ふるさとづくり」による支援（2-2）

古賀市には46の自治会ごとに分館（地域公民館）があり、地域ごとに特色を活かした分館活動が行われています。こうした分館の特色ある活動や地域づくりを関係各所と連携し支援していくと共に、分館間の交流を積極的に推進していきます。

また、分館活動の中に新たな学びを導入してもらうため、リーパスカレッジの出前講座（アウトリーチ事業）から講師の紹介など、連携や支援を図っていきます。

③さまざまな主体による連携・共働の推進（4-2）

生涯学習・社会教育の主体はさまざま、行政が主導するものもあれば、市民や地域の間から自然と発生することも、個人で学ぶことも、同好の士が集まり大きな団体となることもあります。こうしたさまざまな主体で行われる活動を把握し、必要なマッチングを行ったり、一堂に集める機会を作り、団体や活動を相互に理解してもらうよう働きかけます。

また、古賀市文化協会や古賀市スポーツ協会は、古賀市の文化・スポーツ振興の中核を担う存在であるため、緊密に連携を行い、古賀市の生涯学習・社会教育の発展をめざします。

④社会教育委員を通じた学びの交流（新）

古賀市社会教育委員は社会教育に関し教育委員会に助言するための機関で、社会教育の兼指揮者や学校教育関係者などで構成されています。そのため、社会教育や学校教育の現場に知識・経験のある社会教育委員の働きかけにより、生涯学習・社会教育への理解が深まり、現状を正しく知ることができるため、市は積極的に連携していきます。

特に、生涯学習笑顔のつどいについては、社会教育委員の自主事業であり、社会教育の現場での問題を先進団体の紹介・解説により多くの市民に共有するものであり、例年高い評価を得ております。今後も生涯学習笑顔のつどいを支援し、団体間の情報共有を推進していきます。

「個性をみがく生涯学習・社会教育」自己実現

人は、地域や社会と交流することによって、新たな学びが生まれ、充足感を得ます。そして交流の中で「こうなりたい」という理想の自分を見つけ、理想に向かって更に学びを深めていくことができます。手軽に始めた学びを、生活の中に根付かせ、高い目標を持ちめざす場所へと変えていく支援を行っていきます。

また、事業所も学びたい社会人を積極的に応援する必要があるため、その場としてリーパスプラザこがを利用してもらえよう支援を行っていきます。

①生涯学習・社会教育の振興を支える人材の育成及び充実（4-(1)）

人口減少・少子高齢化社会となり、社会教育団体や地域・コミュニティでも新規加入者が見込めず、組織が高齢化していき、後継者不足に悩まされていることが少なくありません。そこで、古賀市スポーツ協会や古賀市文化協会等とも連携して、指導者のための研修会など人材育成の支援を行っていき、長期継続できる組織づくりをめざしていきます。

②市内事業所のスキルアップ・リカレント（学び直し）推進（新）

社会情勢は刻々と変化しており、技術革新は常に行われています。こうした目まぐるしい状況に対応するため、事業所も常に学び、情報を更新していく必要があります。

古賀市では、こうした事業所のスキルアップ研修や学び直しを、リーパスプラザを中心に積極的に推進していき、知識の新陳代謝に役立てられる施設づくりを行っていきます。

「やる気が高まる生涯学習・社会教育」モチベーション

生涯学習・社会教育は学びを楽しむことが生きる糧となり、生きがいとなることを目標とします。そのために高いモチベーションを維持するための仕組みを構築していきます。

①生涯学習社会の実現に向けた計画の普及・啓発（4-4）

本計画は2024年～2033年の10年間の生涯学習・社会教育の指針となる計画です。本計画を古賀市全体に普及・啓発していくと共に、本計画を基礎としたさまざまな事業を行い、本市の目指す生涯学習・社会教育を達成していきます。

②自分の学びの成果を共有・発信する場の提供や支援（新）

学びにおいて発表の場とは、これまでの成果を確認し、他者に知ってもらうためによりよい状態に昇華する、たいせつな機会です。古賀市では、市主催の各種スポーツ大会、文化の日の祭典、童謡まつりのほか、「わくわくフェスタ」では子ども会育成会などが中心となった実行委員会により子どものための企画を考えています。こうした発表の場を学習活動へのモチベーションとすべく、イベントの周知、内容の充実に努めていきます。